

第7回海陽町学校のあり方検討委員会

議事録

日 時：令和5年2月28日（火） 10:00～11:45

場 所：海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中9名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川主査
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子

■議題1 海陽町学校のあり方基本方針

登井委員長：徳島新聞の方が、委員会の様子を見学させていただきと連絡がきましたが、まだ来ていません。来られたら後ろに座っていただきますので、よろしくお願いします。最初の議題について事務局から説明をお願いします。

事務局：お手元の資料1をご覧ください。海陽町学校のあり方基本方針の答申案を説明します。これまでの委員会の意見を踏まえて、答申案をまとめました。最初に、1の答申にあたっての一番下、グローバル教育の推進について現状に記載しました。2の学校の適正規模の基本的な考え方について説明します。教育的視点では、集団による教育の充実、小中一貫教育の推進、中学校の部活動、スクールバス、教職員の働き方の5つの視点で学校再編計画基本計画をまとめるものとします。地域連携の視点では、地域と学校の交流、コミュニティ・スクール、放課後子ども教室等の3つの視点で学校再編計画基本計画をまとめるものとします。まちづくりの視点では、安心安全な学校、地域の未来を担う子どもを育てる学校の2つの視点で学校再編計画基本計画をまとめるものとします。学校施設の適正化の視点では、行財政改革プラン、廃校後の跡地利用の2つの視点で学校再編計画基本計画をまとめるものとします。以上が、来年度からまとめる学校再編基本計画の条件となります。

登井委員長：続いて資料3についても説明してもらい、すべて説明が終わってから皆さんから意見をいただきたいと思います。次のところは私から説明します。資料を読んでいきます。（資料1の「3海陽町の学校のあり方」を読み上げる）事務局の説明とあわせて質問や意見や言っていたらとありがたいですので、よろしくお願いします。

福田委員：答申にあたって、中学校の部活動の状況の文言について修正すればいいかと

思います。ある程度共通の部活動にしていますが、野球、バレーボール、サッカーがありますが、現状は、バレーボールは新入部員が入らないとチームができなくなります。サッカーも同様です。野球は、穴喰中の方が残ると思います。

登井委員長：答申する時にどのような現状になっているかということですね。

三浦教育長：状況が答申案作成の出だしの頃と異なってきました。海陽中は当初はできていたが今はクラス替えができない年度があります。答申の際は、変えていかないといけないかと思います。

登井委員長：ありがとうございます。突っ込んだ話になりますが、穴喰地域と海南海部地域の2校2校体制にと話が進んでいっているように思います。

福田委員：言われたように2校2校体制は、皆さんやっとイメージを持たれていると思います。大きな反対はないと思います。教育的視点の小中一貫教育の推進ですが、海南小が1校になるので、3枚目の裏、まずは2校2校体制の海部小と海南小が統合再編し、海南と穴喰の両方の小中学校が一貫教育を進めることが適切としてもいいかなと思いました。

登井委員長：2校2校体制とは、福田委員は、海南小と海部小が一緒になって新しい小学校となり、海陽中学校と校区が同じになるので、小中一貫にしては言う意見でした。委員の皆さんどうでしょうか。

三浦教育長：穴喰は、チェーンスクールを採用した際に教育委員会では、海陽中はしないのかと意見が出されていました。教育委員会ではその方向は持っているのです。

登井委員長：答申に入れていってもいいといった感じですね。

村田委員：穴喰は、距離は問題ないと思います。海南小と海陽中の距離感も同じだと思います。

登井委員長：小中一貫については、答申に入れていいのではないかと思います。次に、海南海部地域と穴喰地域の再編を進めていくと、捉えていいですね。続いて、中学校の再編統合。個人の意見としては、海部小と海南小の統合は新しい場所かどうか。海南小の場所だと資料に書かれていますが、答申に入れてはいけないのでしょうか。皆さんはどうですか。1校1校の時にやるのか、先を見越してやるのかですね。

辻委員：場所、距離の問題があるのですが、スクールバスが来ているので、新しい場所を中心に持ってくるのか、山の防災を考えてつくるのか、難しいと思います。いい場所があればいいですけどね。距離を考慮して真中にはどうですか。

皆津委員：財政的な視点や住民の理解が得られるかも大事ですね。

登井委員長：せっかく統合するので、元の位置で統合するのか、防災に強い場所を選んで、新しい場所につくることについて議論してはどうかと思います。

福田委員：個人的意見ですが、保育園、幼稚園、海陽中はここがいいです。場所がいえば高台移転は山を切って、チェーンスクールではなくパッケージデザインが個人的なイメージです。児童生徒が歩いて来れない、道路が液状化するデメリットがあります。また、財政面での考え等検討しても、新校舎建設は難しいかもしれないです。

事務局：昨日、議会全員協議会があり、施設のあり方委員会で庁舎のあり方が議題に上がりました。徳島新聞では、牟岐町の役場が高台へ移転するため、造成工事が伴うことも考慮に入れて検討しています。穴喰にバイパス工事が進んでいます。今の段階では、行財政改革の考え方では令和9年のタイミングを考えると調整する時間がありません。穴喰の教育レベルと設備をアップしないと差が生まれる可能性がありますので何らかの整備はしっかりとやっていきます。

登井委員長：各委員さんから、2校2校体制、海部小と海南小の統合と穴喰は残す話しを進め、次に校舎を海南小に持ってくることに他に案がでています。新しい校舎を建てる案ですが、財政的な面で議論が進んでいるところです。新しい所に校舎を建てるには時間がかかることと住民の理解を得ることが必要です。やるんだったら、いつやるか、海部小と海南小の統合を一気に進め、地域の様子を見ていく必要があります。

三浦教育長：防災という意見がたくさん出てきました。現在の校舎もいずれは更新しなくてははいけません。教育委員会では、それも含めて10年、20年先を考えていかねばならないと委員会の中で検討しています。

登井委員長：この委員会としては、新しい校舎を建設という文言を答申に入れていく。つくるつくりたいは、町と議会が決定してくれます。私は、このような意見は答申に入れてもいいかなと思い提案しました。

元木委員：再編の時期は令和5年から令和9年のどこかで2校2校体制になるのですか。令和9年からスタートでは違うと思います。子どもの数が減っているのに、1校1校を視野に入れて、中学校の部活動も考えて、1校1校になるのでは、通学を考えると新たな場所に建てる必要があるのではないかと思います。子どもたちにいい環境の中で、施設が充実して、2校2校の始まりには1校1校の話になる話があってもいいのではないのでしょうか。財政的には全く分かりませんが。

登井委員長：令和9年にスタートさせる時には、1校1校体制が見えているのではないのでしょうか。他にどうですか。

辻委員：子どもの人数が下がっていきます。答申は、まず2校2校体制でいって、先に体制をつくって、後に1校1校、中学校は隣同士しはどうですか。答申としては、2校2校体制つくって、それから考えて、その先は新しい場所に行けたらと思います。

皆津委員：子どもの数は、1年生は大きくは変わらないけど、0歳はわかりません。ある程度は数字はよめます。

元木委員：子ども数は、確実に減っています。

三浦教育長：出生数からいくと、海南が21人、海部6人、宍喰5人、今年生まれた子供が6年生になった時、海南134人、海部35人、宍喰62人、令和11年度の児童生徒数です。

登井委員長：令和9年度に再編統合するのか、それよりも遅くするか、この時期が限度だなと。委員の皆さんどうですか。

皆津委員：説明責任があるので、実数がわかっていない令和9年以降は書きにくいです。

三浦教育長：子どもの数は令和10年までわかります。

登井委員長：令和9年以降のわかっている子どもの数で、次に1校1校に持っていくといった意見、中学校1校小学校2校体制もありますが、宍喰中の部活動等を考えて、中学校1校、宍喰小学校も一気に再編統合し、1校1校体制にするのか。どうでしょうか。海南・海部地域から宍喰に行くのは人数が多いから難しいと思いますが。

村田委員：防災では穴喰小が一番危険。新校舎は高台に一気に持っていくのが安心と思います。

登井委員長：ありがとうございます。穴喰小が危険な場所にあり、早く高台に動かす意見です。そこらあたりどうですか。2校2校体制の基本方針はOKで、1校1校を目指して、新しい校舎を建てるのが、皆さんのお考えだということですね。その中で、中学校1校小学校2校体制はどうか。その他に、令和9年度までという表現はどうでしょうか。

角田委員：個人的には、令和9年度以降のほうがいいのかなと思います。

登井委員長：令和7年8年は急ぎすぎる。令和9年を含めてがいい。という意見です。次のステップに、1校1校にという意見がでました。

角田委員：財政はわからないが、校舎をつくるのにお金はプールしていくんですか。その年度で予算を一気に使うのですか。

事務局：建物の長寿命化計画は貯めるやり方では無いですが、新校舎は財政部門になるので、一般的には基金として貯めていくのが一般的だと思います。その方向性に向けて、基金を積み上げていきます。改革プランと逆行した考えは、後々にしわ寄せが来ます。庁舎を高台移転するため造成する、山の上をカットし、土を処分する平地が出てくる、敷地の近いところに効率的処分するなど色々と条件検討が出てくる、個人所有の場合、交渉して相続が発生すると町で登記し、測量したりと時間がかかることがあります。

登井委員長：ある程度建てる計画を持っておかないと時間がかかる、早く小学校を安全な高台に持っていく事を考えておかないと時間がかかるということですね。財政の説明がありました。話が戻っていくのですが、2校2校はいいんだけど、1校1校以外に、1校2校がいいのではなど、せっかく再編統合するなら、新しい校舎にしてという答申がいいのではという意見がでました。

皆津委員：地域に小学校があるとないのでは違います。子ども中心に考えるのだけど、地域の事も考えてほしいと思います。子ども中心にしながら地域の少子高齢化の中で地域の事も含めて学校を考えていけないといけないという感想です。

登井委員長：小学校は地域の核であるということですね。皆さんどうなんでしょうか。

角田委員：保護者としては、2校になりました、1校になりました。と言われても、混乱します。1校体制に一気に持っていた方が説明しやすいと個人的には思います。

登井委員長：はじめから1校体制という意見ですね。

谷口委員：この先、いつ地震が起きるかわかりません。もしかしたら、地震が起きて、更地になって、町全体が更地になってしまうと1校が高台にある方向になっていくのでしょうか。その前に、数年後には地震が来る、統合再編の前に地震がくる可能性がありますよね。地震を見据えて、周知していったらいいのではないのでしょうか。

登井委員長：ゆくゆくは、1校1校体制を目指していく方法ですかね。とりあえず、2校2校体制をやり、先を見越して1校1校体制を新しい校舎の場所とか、計画していくと答申していくのですね。

谷本委員：阿南市でも1校になる地区があると新聞で見た気がします。

登井委員長：阿南のような大きな市でも、統合の話はでており、どんどん校区が広がっていきそうです。

谷本委員：少人数の地域から大きい学校に通わせている家庭があるそうです。大きい学校が人気あると聞きます。答申案がまとまってきたと思います。村田委員さんが言ってくれたように、海南と海部が合併し、中学校と連携し、海南に統合ではなくて、穴喰小学校の子どもが海南の学校に通うのに、高台へ歩いてはかわいそうと思います。中学校は通えるかなと思います。小学生が早起きして通うのは、穴喰は遠いのでかわいそうと思います。

福田委員：将来的に穴喰は道路ができ、防災公園もできます。次は穴喰のパッケージ化が望ましいと思います。海南海部もパッケージ化し、その形が望ましいと思います。両方が、高台移転し、パッケージ化して移行していく事がいいと思います。

登井委員長：財政的にどうでしょうか。

福田委員：1校体制は、山を切って、パッケージが2つあったら、今の土地が使えます。穴喰中は、新しい設備が必要だけでも古いのは校舎と体育館だけです。管理棟と生徒棟

が別です。パッケージ化してしまうには、財政的にお金がいると思います。

高台にパッケージができれば、親は車で送ってきます。穴喰中は親に引渡しもでき、道ができればいろいろな入り方ができると思います。

皆津委員：小学校と中学校が同じ校舎で学ぶことは望ましいと思います。

福田委員：穴喰地区では、コミュニティスクールと学校運営評議委員は、共通しています。

登井委員長：2校2校体制のところでは新しく校舎を建設、そうすると1校1校体制は遅くなるということですね。

福田委員：2校2校のパッケージ化が望ましい、住民から批判を受けないと思います。

三浦教育長：那賀町も木頭小学校と中学校は同じ敷地で木頭学園と称しています。パッケージで義務教育学校になっており、佐那河内村にも同様の小中学校があります。

登井委員長：では、どのように盛り込んでいきますか。方針として、2校2校体制の小中一貫校を2校にするという方向でしょうか。

辻委員：当面は、2校2校体制、いずれは、1校1校体制に持っていく方向がいいと思います。

登井委員長：「穴喰小中を残して、海陽中と新設小学校の2校2校で一貫校にするか議論していく。」と決めていいですね。「令和9年までか、それ以降は、1校1校体制を超越して、中学校も一緒になる時に新しい校舎にしていく。」と決めてよろしいか。

谷口委員：パッケージ化はいいなと話を聞いていました。穴喰は人数が少なくなるけども、海部小と合併しても複式学級の問題は残りますか。

福田委員：問題は残ります。

登井委員長：確実に複式学級の問題は出てきます。

福田委員：穴喰の60人規模がいつまで続くか。60人から50人までは耐えられるか

等です。複式問題は付いて回ります。それまでは義務教育学校で、1つの校舎で学ぶことを何年までか見通しを持っていき、それ以降は、1校1校体制で海南に入るのがベストだと思います。

皆津委員：小中学生が同じ校舎で学ぶ意義が大事なと思います。

登井委員長：来年度、基本計画を策定していくと再編時期が決まってきます。ある程度意見をまとめて、次回には決めて、教育委員会に答申したいと考えています。

元木委員：中学校の部活動を考慮するとなっていますが、合併しても広がらないと思います。

登井委員長：中学校の部活動を第一にしていますが、中学校の部活動のあり方がだけでは理由付けが苦しいです。もう少し幅広い再編統合の理由付けが必要です。どうでしょうか。

福田委員：海南・海部地区の保護者の考えになりますが、先を見越して、今の中一が文化部に入ろうとします。その動きは海陽中にあります。これが広がっていくと活性化していくのかなと危惧します。部活動の地域移行がありますが、バスが動いていると教員が乗らないといけない、職員研修ができないなど問題がたくさんあります。安全確保の問題はついて回ります。これらを柔軟に動かしたら、例えば、部活動の指導者がバスの運転もし、全て一人でやれたらスムーズです。もしかしたら文化部に入る生徒が運動部に入るのではないかと思います。このままでは、何か部活が小規模になり、活力が消えていく学校ができてしまい、またネットなどをして昼夜逆転する生活になってしまうこともあるかもわかりません。

登井委員長：傾向がわかってきました。そこらを考えて、統合したら部活動等をどう進めるのか、小学校と同じでたくさんの人と関わりを持つ、そこらあたりを答申に入れていくということですね。

元木委員：海陽中の2年に子どもがいて、2年生はクラス替えが出来るけど、1年生はできないのです。前回の会議で岸先生がクラス替えができると子どもが生きやすくなると言っていました。人数が多いと役割をいろいろこなして、変わっていきます。多い人数で、皆が意見を出しあって、2・3年先を見越して、複式を解消できる規模の集団の場をつくるのが大切だと思いました。地域の中に学校がなくてはならないし、後、部活動離れが気になりました。

三浦教育長：地域移行は、海陽町は本腰で協議会を立ち上げて、令和7年度までにやっていく事になっています。中学校から部活動が地域に移っていくと、部活動が変わっていきます。再編の方針の中で、1クラス当たりの人数20人が望ましいと考えます。学級内の班編成ができますので。

登井委員長：1クラス20人以上ですね。

村田委員：小学校では20人以上欲しいです。そうなれば、いい学習活動ができます。後、2校2校体制と1校1校の間で、2校1校とか、中学校だけ先再編し、同じ時期に1校しなくても高台移転時に大きな計画にするのはどうでしょうか。

登井委員長：皆さんのお話を聞いていて、色々な方法があることがわかりました。次回はいよいよ最終の会となります。本日、出された委員の意見は、事務局が答申案として整理してまとめていきます。事務局の方から説明をお願いします。

事務局：次回の委員会は、来月に予定しています。次回委員で答申案を確認していただき、答申となります。事前に委員の皆様へ答申案を送付いたします。よろしく申し上げます。

閉会